

花巻市東和地域協議会
平成25年度第4回会議記録

日 時	平成25年12月18日(水) 13:30~15:15							
場 所	花巻市東和総合支所 1階 第2会議室							
委 員	役 職	氏 名	出席	欠席	役 職	氏 名	出席	欠席
	会 長	小原 宏	○		委 員	下坂 淳代		○
	副会長	吉田 英雄	○		委 員	猿舘 祐子	○	
	委 員	菊池 隆耕		○	委 員	小田島 忍	○	
	委 員	下林 育男	○		委 員	日下明久美	○	
	委 員	平野 保	○		委 員	晴山 准子	○	
	委 員	赤坂 學	○		委 員	川村 哲夫		○
	委 員	小川 洋征	○		委 員	藤井 公博	○	
出席職員	まちづくり部 部長 菊池保守 地域づくり課 課長 永田祐二、主任主査兼地域振興係長 阿部勇悦、主任 八重樫尚孝 東和総合支所 支所長 赤坂謙 地域振興課 課長 多田潤、課長補佐 藤根幸生、地域づくり係長 佐藤健、 上席主任 三熊俊正 市民サービス課 副参事兼課長 藤井正昭 地域支援室 地域支援監 青木力三							
傍 聴 者	0名							

司会：地域振興課長補佐

1 開 会 (司会)

- ※ 出席者過半数により会議が成立することを報告
- ※ 地域振興課長から出席職員を紹介

2 諮 問

花巻市公共交通計画(案)について

- ※ まちづくり部長から諮問書の伝達

3 会長あいさつ (小原宏会長)

委員の皆様、ご苦労さまでございます。ただ今、花巻市公共交通計画(案)につきまして、諮問を受けましたので、これから、市の担当課から説明を受けまして、それに関する質疑を行い、その後、市の担当課にはご退席いただきまして、委員による審議を行いますので、本日はよろしくお願

いします。

※ 以後、会長が議長となる。

4 説明及び質疑

小原宏会長 それでは、花巻市公共交通計画（案）についての説明をお願いします。

地域づくり課長 ※ 花巻市公共交通計画（案）について、資料により説明

小原宏会長 ありがとうございます。確認しますが、いつ頃までに答申をお出しすればよろしいのでしょうか。

地域づくり課長 1月下旬頃に公共交通会議を開催する予定ですので、1月中旬頃までには、答申をいただきたいと思います。

小原宏会長 ただ今、説明を受けましたので、委員の皆様からの質問等のご発言をお願いします。はい、藤井委員どうぞ。

藤井公博委員 現在、花巻市がバス運行事業者に対して、どの位の補助金を出しているのか、また、市営バスの収支状況について、お知らせいただきたいと思います。

八重樫主任 民間路線の補助金は、県補助分及び市補助分として、毎年2千万円程度の補助金を事業者に交付しております。そのほか、国庫補助路線ということで、晴山線につきましては、平成23年度は1千4百万円程、平成24年度は9百万円程の補助金を交付しております。市の自主運行バスにつきましては、市の持ち出しとして、6千万円程を予算計上しておりますので、トータルとして、公共交通確保につきましては、年間9千万円程の支出となっております。

小原宏会長 はい、平野委員どうぞ。

平野保委員 予約応答型乗合交通について、試験運行の廃止とは具体的に何ですか。

地域づくり課長 西南地区及び東和地区から県立中部病院までの予約応答型乗合交通の試験運行を行っていましたが、一便当たりの平均利用人数が、西南地区が1.1人、東和地区が1.3人という状況で、利用者が増えませんでしたので、平成25年3月末で廃止をしたところです。

小原宏会長 はい、猿舘委員どうぞ。

猿舘祐子委員 予約応答型乗合交通を市内全域に拡大するために、何年位の実験的な年度を考えて、平成35年度という10年間の中でどの位、きちんとした形で実施していくのか、計画を考えていますか。

地域づくり課長 民間路線バスが廃止になるところから、順次、予約応答型乗合交通に移行して、拡大していきたいと考えております。しかし、地区での要望と需要がなければ運行ができないのが事実です。バス路線が廃止になる際は、半年前位には事業者から市に連絡がきますので、その

段階で、地区に入って予約応答型乗合交通についてご説明をして、地区の皆様と話し合いをしていきたいと考えております。

まちづくり部長 もうすこし、丁寧に申し上げますと、鍋倉線は4月から廃止となりますが、市としましては、地域に入りまして、話し合いを重ね、4月からは予約応答型乗合交通に移行する予定となっております。事業者とは綿密に連絡を取って打ち合わせをしており、一緒に地域に入って話し合いをして、一緒に考えていくというスタンスです。例えば、東和地域では、市街地の循環バスの運行経路について、地域で議論いただき、行政と一緒に、地域の中心部が活性化するようにしていきたいと考えております。

小原宏会長 はい、藤井委員どうぞ。

藤井公博委員 今後の高齢化社会を見据えた、需要予測や調査をされていますか。

まちづくり部長 そのようなデータが欲しかったのですが、個人情報保護の問題等がありまして、関係機関からデータをいただくことができませんでした。

小原宏会長 はい、晴山委員どうぞ。

晴山准子委員 実際に利用する高齢者の声は、なかなか行政に届きにくいと思いますので、地域の状況や需要を丁寧に調査していただきたいです。

まちづくり部長 基本的にはそのように考えております。東和地域では予約応答型乗合交通は1便当たり平均6.4人の乗車があり、利用者数が伸びております。しかし、利用方法が解らない方が未だにおられますので、今後、周知方法を見直していきたいと考えております。

小原宏会長 私からですが、現在の予約応答型乗合交通の運行日数を増やしたいという地域からの要望があった場合、現在、検討することは可能でしょうか。

地域づくり課長 地域からの要望があれば、いつでも地域に入って話し合いをしたいと考えております。話し合いの前提としては、地域の中でよく話し合いをされたうえで、お互いに乗車人数を下げずに、もっと使い勝手がよくなるよう話し合いをしていきたいと考えております。

まちづくり部長 具体的には、鍋倉線廃止にともなう予約応答型乗合交通への移行について、一週間の便数について地域と協議した際には、地域のほうから、4便では乗車人数が2人を下まわる可能性があるのでは、3便にしたいという意見をいただきました。このように、地域で自ら判断しておりますので、最終的な決定権は地域にゆだねております。

小原宏会長 はい、吉田副会長どうぞ。

吉田英雄副会長 現在、予約応答型乗合交通の利用料は石鳥谷が300円、東和が400円で格差がありますが、均一化できないでしょうか。また、花巻、大迫はこれからですが、利用料をいくら位に想定しているのでしょうか。それから、大迫から東和へ等の区域外利用については、どの

ように考えていますか。

地域づくり課長 利用料の均一化につきましては、課題と受け止めておりますが、来年度につきましても、現行のままでお願いしたいと考えております。

八重樫主任 石鳥谷につきましては、循環バスから予約応答型乗合交通に移行し利用料が、200円から300円に上がりましたが、自宅付近から乗車できるというメリットを付加した形での料金設定とした経緯があります。東和につきましては、試算の段階から乗車距離が長いということで、費用負担の観点からの料金設定となっております。ただし、同じコミュニティ単位での乗り降りの場合は300円という2段階の設定となっております。したがって、現行の利用料は乗車距離に応じた設定となっております。

地域づくり課長 区域外利用につきましては、地域の中心部に行くまでを予約応答型乗合交通でみることを基本として考えております。

まちづくり部長 基本的には区域外利用につきましても、利用の需要があれば運行できるものです。

八重樫主任 定時定路線から予約応答型乗合交通に移行した場合の利用料の設定につきましては、キロ運賃制による50円刻みの利用料を想定しております。区域運行の場合は花巻及び大迫でも、東和地区400円と同じように、100円単位での利用料を想定しております。

小原宏会長 はい、下林委員どうぞ。

下林育男委員 市民への計画の周知について、どのように考えていますか。

まちづくり部長 高齢者でも簡単に予約できるように、利用方法について解りやすく説明したチラシを全世帯に配付したいと考えております。それによって制度が理解されて、もっと利用されるものと考えております。

小原宏会長 はい、猿舘委員どうぞ。

猿舘祐子委員 これからの公共交通については、住民にも責任があるということの説明をうかがいましたが、そうであれば、行政としては、住民に対して、選択するものがどのようなものがあるのかを提供することが大切ではないかと思えます。

地域づくり課長 今年度、地域に話し合いに入った際、積極的な地域、そうでない地域がありました。いずれ、県交通から市に先に情報が入ってきますので、それが入りしだい、市では地域に入ってご説明申し上げます。

小原宏会長 晴山線の一部路線廃止について説明いただけますか。

八重樫主任 こちらは、国庫補助路線です。年間1千2百万円程の赤字で、昨年度は900万円の国と県の補助を受けており、差し引き300万円から400万円程の赤字を県交通が負担してい

る状況です。このまま利用者が減りますと国庫補助路線の要件を欠いてしまいます。そうしますと、市の単独補助となりますので、今の利用者を維持しつつ路線を維持していくためには、一部路線を廃止させていただいて効率化を図るという観点から、県交通より申し出があったものです。要件が平成13年当時の市町村の中心部をまたぎ、かつ駅をつなぐ路線ということですので、土沢駅と花巻駅間は死守をしなければいけません、土沢駅と晴山駅間を廃止した場合でも国庫補助の要件を満たしておりますので、県交通から一部路線廃止の打診があったということです。

まちづくり部長 市としては幹線路線として位置付けておりますので、死守したいと考えております。また、市としては鉄道も死守しなければと考えております。鉄道を死守しつつ、なおかつバス路線も死守したいと考えております。

小原宏会長 はい、赤坂委員どうぞ。

赤坂學委員 県交通は大型のバスしか走っていないようですが、大型のバスしかないのでしょうか。

まちづくり部長 中型はありますが、新たなバスを導入する余裕がないものと思っております。

小原宏会長 はい、日下委員どうぞ。

日下明久美委員 7ページの確保する路線については、利用者数の向上が見込まれない路線については、必要に応じて見直しを行うとありますが、10年間必ず確保しますという計画ではないということですか。利用者数によっては10年以内に廃止になる可能性があるということでしょうか。

八重樫主任 補助を受けられなくなった路線につきましては、違う方法や違う手段での幹線としての維持が考えられるという趣旨でございます。現状ではこの幹線につきましては地域を結ぶ路線ということで維持していく考えです。

まちづくり部長 地域の活性化と併せて高齢者の足の確保という両面から計画をつくりましたので、これを実行していくためには、行政まかせだけでは不可能なことをご理解いただき、地域の皆様と一緒に地域の活性化と高齢者の足の確保を図るという視点でお願いしたいと思っております。

小原宏会長 はい、小田島委員どうぞ。

小田島忍委員 予約応答型乗合交通は乗車人数が何人から運行しますか。

まちづくり部長 予約応答型乗合交通は乗車人数が1人から運行しますが、乗車が無い場合は運行いたしません。

小原宏会長 それでは、今日の質疑応答につきましては、これで終了としてよろしいでしょうか。（各委員より「よろしいです。」） それでは、終了いたします。

※ ここで、まちづくり部長及び地域づくり課職員は退席

※ 休憩（10分間）

5 審 議

小原宏会長 それでは続きまして、審議ということでございますが、本日、結論を出すわけにはいかないと思います。つきましては、改めまして答申のための地域協議会を開催したいと思いますがいかがでしょうか。（各委員より「異議なし。」）それでは、次回の地域協議会を1月17日、金曜日の午後1時30分から開催することよろしいでしょうか。（各委員より「はい。」）それではよろしく申し上げます。これで審議を終了いたします。

6 そ の 他

東和総合支所長 ※ 花巻市老人保健施設華の苑及び花巻市華の苑指定居宅介護支援センター指定管理者の指定についてお知らせ

7 閉 会（司会）